

ベンジャミン・ブリテンの世界 番外編

20世紀英国を生きた、才知溢れる作曲家の肖像

曲目解説

ブリテンの作品

アルプス組曲

リコーダー三重奏のために 1955 年に書かれた組曲。この作品は、とあるアクシデントから生まれた。ブリテンは友人で画家のメアリー・ポッターらとともにツェルマットヘスキーに行っていたが、そこでメアリーが足首を痛めてしまう。しばらく動けなくなった彼女のために、ブリテンはこの組曲を書いて、彼女の気を紛らわせようとしたのだった。

ヴィットリアの主題による前奏曲とフーガ

イングランド中東部ノーサンプトンにある聖マシュー教会の聖名祝日（聖マタイの日）のために、1946年にわずか3日で作曲された。5分半ほどのオルガン曲で、主題は、スペインを代表するルネサンス音楽の作曲家トマス・ルイス・デ・ビクトリア（しばしばイタリア風に「da Vittoria」と綴られる）の4声のモテット《エクチェ・サチェルドス・マグヌス》(1585)から採られている。

ウィリアム・ブレイクの歌と格言より

オールドバラ音楽祭に出演するバリトン歌手のディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウのために1965年に書かれた連作歌曲。歌の前にそれぞれ短い格言が付き、格言と歌が一對になったものが7篇、全14曲で構成されている。

本日は、格言 2「牢獄は法律という石によって建てられ」と「煙突掃除の子」、格言 5「怒っている虎は教育のある馬よりも賢い」と「ハエ」をお届けする。詩句は18～19世紀のイギリスの画家・詩人ウィリアム・ブレイクから採られている。

子守歌のお守りより

1947年にイギリスの様々な詩人に作曲した、全5曲からなる《子守歌のお守り》は、ブリテンの歌劇《ルクレティアの凌辱》でタイトルロールを務めた英国のメゾ・ソプラノ歌手ナンシ

ー・エヴァンスのために書かれた。

第 2 曲「ハイランドのバラード」は、18 世紀スコットランドの詩人ロバート・バーンズの詩による。ハイランドとはスコットランド北部の山岳地方を指している。堂々とした明るい歌で、やんちゃな子どもへの母親の愛が感じられる。第 3 曲「セフェスティアの子守歌」は、シェイクスピアと同時代の作家ロバート・グリーン¹の詩による。父の不在を嘆く母の悲しみに満ちた曲。セフェスティアとは、グリーン¹のロマンス『メナフォン』に登場するヒロインの名前。第 4 曲「お守り」は、17 世紀初頭のイギリスの詩人・劇作家トマス・ランドルフの詩による。すぐに寝ないと恐ろしいことになるよ、という歌。

ジミーのために〜ティンパニとピアノのための

《ジミーのために》は、ティンパニとピアノのための小品。1955 年、イスタンブール滞在中に書かれ、イギリスの打楽器奏者ジェームス・ブレイズに捧げられた。大きく 3 つの部分に分けられ、旋律はほのかに異国情緒を感じさせる。

シンプル・シンフォニー (弦楽五重奏版)

1933 年の暮れから 34 年にかけて作曲され、ブリテンのヴィオラの先生だったオードリー・オールストンに捧げられた。神童だったブリテンは、少年の頃からすでにいくつかのジャンルにおいて作曲をしていた。そして本作は 9~12 歳までのそうした若書きの楽想を素材としている。タイトルの頭文字がすべて韻を踏んでいるところにも、少年らしい遊び心が表れている。4 楽章からなる弦楽オーケストラまたは弦楽四重奏のための作品で、弦楽オーケストラで演奏する場合は、弦楽四重奏の各パートを増員して、コントラバスを加える。

第 1 楽章「騒々しいブーレ」はソナタ形式。第 1 主題は自作の組曲第 1 番 (1925) のブーレ、第 2 主題は歌曲 (1923) から採られている。第 2 楽章「遊び好きのピチカート」は三部形式で、ピチカートのみで演奏される。自作のスケルツォ (1924) と、中間部のトリオは歌曲 (1924) による。第 3 楽章「感傷的なサラバンド」も三部形式で、組曲第 3 番 (1925) からの憂愁を湛えた調べが朗々と歌う。中間部の穏やかな旋律はワルツ (1923) による。第 4 楽章「浮かれ気分の終曲」はソナタ形式で、第 1 主題がピアノ・ソナタ第 9 番 (1926)、第 2 主題が歌曲 (1925) から採られている。小休止を挟み、ピチカートで始まる短いコーダは、次第にテンポを上げて、最強奏で堂々と終わる。